

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812362		
法人名	医療法人 長慶会		
事業所名	グループホーム 桜木荘		
所在地	秋田県大仙市協和船岡字上宇津野249-1		
自己評価作成日	平成28年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成28年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは医療法人であり、日頃より医師及び看護師との連携が密に図られています。その強みを生かし、終末期ケアにおいても積極的に取り組んでいきます。事業所の理念は「真心」です。真心とは「思いやりの心」思いやりの心は、色々な形で入居者様一人ひとりに伝えていくことができ、重度化していく中でもしっかりと入居者様の思いを受け止め、寄り添い入居者様との大切な時間を過ごしていけるよう日々、支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との繋がりが深く、災害時の協体制ができているだけでなく、職員もその関係の大切さを十分に認識し、認知症カフェを開催して理解を深めていただきながら地域の一人としての役割を担うと共に、家族との関係性の構築をも大切にしたい運営をされています。理念に対する意識を高めて毎年研究課題を設定し、ケア会議等で話し合っ運営推進会議で発表の場を設けており、ケアに対する職員の意識向上にも繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「真心」を研究発表の課題とし、理念について議論した。真の真心を追究し、更なる意識を高め、実践につなげられるよう努めている。	理念である「真心」を思いやりの心としてさまざまな形で支援し、ケアの向上を目指した取り組みが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	花火大会、梵天、お茶の会(認知症カフェ)等に参加したり、地域のボランティアを招きイベントを行なうなど交流の場をつくっている。	災害時の協力体制ができている他、認知症カフェを定期的に開催して利用者も交えた交流が行われており、地域の牽引役を担うべく努力をされています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症何でも相談所として窓口を設置している他、毎月のお茶の会(認知症カフェ)を通して、認知症について学ぶ機会をつくるなど、地域と共に歩んでいきたいことを伝えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年、事業所目標を掲げ研究発表を行ない、運営推進会議を通し、グループホームの役割や認知症ケア、看取りについてなどの報告や話し合いを行い、理解を深めている。そこでの意見をサービスの向上に活かせるよう努めている。	地域に開かれたホームとなるために取り組みや課題について意見を出していただき、運営に反映できるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険等について、ご家族より相談があった際は手続きの仕方など教えてもらっている。また、事業所の実情や取り組みについては主に運営推進会議を通して報告している。	制度上の質問等、日頃から密に連絡をとり、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を通し、全職員が正しい理解をもち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の弊害を理解して職員間で共有認識を図りながら取り組まれています。止むを得ない場合の帳票も整備し、対応されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の報告または日頃を振り返りながら毎月のケア会議で確認し合い、虐待が見過ごされることがないように防止に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について理解できていない部分があるので、職員一同学ぶ機会をつくっていききたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時や改定時には書面と共に十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者そして家族より率直な意見や要望などの声をひろい満足したサービスを提供できるよう努めている。また、運営推進会議を通して外部者へ表せる機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	色々な意見が聞けるよう取り組まれており、苦情があった場合は委員会を通じて対応を検討することになっています。面会時にはケアについての要望が多く、介護計画に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、ケア会議、各委員会を通して職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	備品の購入や利用者の状態変化に伴う対応の仕方等、必要な支援を行うための職員の声を聞く体制ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、昇給・休暇・職員の増員など、向上心を持って働けるよう職場環境・条件など整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修の参加や年1回事業所目標を立てて介護研究に取り組み、人材育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現場の職員は研修以外、同業者との交流の場がない為ネットワークづくりや勉強会を開き、質の向上に努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当日は特に不安が多い。生活環境に慣れていたかのように、温かい目での見守りの中、困っている事や不安に思っている事がなく察しながら寄り添い、良い関係を築くことができるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族から困っている事、不安に思っていることや要望等を確認しサービスが開始されるが、その後も随時、連絡をとり合い信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を守り、本人の思いに寄り添い、共に支え合える家族のような関係を築けるよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人、両者の思いそして絆を大切にしながら家族と共に本人を支え合っていく関係を築けるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも、知人や地域の方が遊びに来て下さったり、通院先でも知人に合うなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	利用者が大切にしている人や地域との関係を大切にし、可能な限り関わりあえるよう支援されています。運営母体の医院長や職員との関係も馴染みの間柄となっています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一緒に広告でゴミ箱を作ったり、洗濯たたみ等同じ作業を通しながらお互いに助け合い、支え合えるような関係が保たれるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族との絆を大切にし、契約が終了しても必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を尊重し、その人らしく生活ができるよう努めている。困難な場合は、本人と話し合いを重ね、できる限り意向に沿えるよう努めている。	日常の行動や会話から意向の把握に努め、本人本位の生活ができるよう検討されています。会議はユニット毎に行われていますが、両棟の職員は利用者の情報を記録で確認し、共有されています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報や本人又は家族からの情報を収集しこれまでの生活習慣が継続できるよう支援に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや小さな気付きでも職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向・要望の確認と現場職員からの情報や意見を基にアセスメントを行い介護計画を作成している。状態に変化が見られる際は再度、担当者会議を開き、介護計画を見直し現状に即した介護計画を作成している。	日々の記録、担当職員及び他の職員の意見を参考にし、利用者、家族の意向が反映された介護計画となるよう話し合われています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランに沿ったサービス内容を具体的に記録に残すことで、気づきや振り返りにつなげ、職員間で情報を共有し実践の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアによるイベントの開催や、月に1度、地域の方を招き交流を深めたり、民生委員、消防署など連携を図り、安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族等の希望に合わせて、入居前のかかりつけ医を通院できるよう柔軟な対応をしている。また、本人の状態に応じて適切な医療を受けられるよう法人の医師に相談しながら対応している。	利用者、家族の希望を大切に支援されており、家族には定期的に報告されています。運営母体が医療法人であることから、状況に応じて適切に対応されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の正看護師と連携を図り、定期的な訪問や心身の状態に変化が見られる際は、その都度相談し指示を仰ぎ、適切な受診を受けられるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室のケースワーカーと連絡を取り合い情報交換をしている。場合によっては、病棟看護師より、細かい情報をいただく事もある。退院に向けてカンファレンスに出席するなど病院関係者との関係づくりを密に行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて段階を踏みながら、医師や看護師への状態報告や相談、家族等と話し合いを重ね、十分な説明によって方針を共有し、悔いのないケアサービスを提供できるよう支援に取り組んでいきたいと思っている。	終末期の対応指針を策定し、希望に沿った支援ができるよう体制を整えています。これまで1事例のホームでの看取り実績がありますが、医師、職員が連携して取り組まれました。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師の指示の下、誤嚥時に備え誰もが吸引器を使用できるよう練習している。AED装置は設置していないが、消防分署よりAED装置の使い方や急変時の対処方法について学んでいる。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を地域の方に体験していただき、理解を深め火災や地震において協力体制を整えている。また、災害時の避難場所として活用していただけるよう地域に呼びかけている。建物は高台にある為水害被害は低いが集中豪雨などによって起こりうる災害を予測し、自然災害について今後、学んでいきたい。	地域の協力体制はできており、非常時の備蓄もされています。ホームのみの対策にとどまらず、地域全体の災害対策にも対応できるよう検討されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇り(人生)を尊重し、個人情報取り扱いや言葉かけなどプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	その人の性格や生活歴に配慮し、その人に合った対応をすることを心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが、思いや要望を表出できるような雰囲気づくりや自己決定のできる場面をつくり支援に努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアの基本原則を基に、一人ひとりがその人らしい生活を送る事ができるよう支援に努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品やヘアクリームを使用し身だしなみを整えている方もいる。本人と一緒に服を選んだり、家族がプレゼントしてくれた服をコーディネートしながらおしゃれを楽しめるよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事テーブルを拭いてもらったり、副菜の盛り付けやコップ洗いなどを職員と一緒に行うことで、より食事が楽しみなものになるよう支援している。	旬の食材を提供し、行事食に工夫を凝らして楽しい食事ができるよう対応されています。食事前後のお手伝いや野菜の収穫等、利用者個々の能力を活かしながら職員と一緒に作業されています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を基に食事量を把握し、職員間で情報を共有している。食事の偏りのある方は、医師及び看護師に相談し、一人ひとりの状態や習慣に応じた対応をしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じて口腔ケアの促しや介助し、口腔内の清潔保持に努めている。夜間はポリデント消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や排泄動作の一部を手助けしながら自立に向けた支援に努めている。	一人ひとりの習慣に合わせてトイレでの排泄支援を行っています。男性利用者には男性用便器が使用できるように工夫しながら支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽体操や水分補給の促し、毎朝ヨーグルトを提供するなど便秘の予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の健康状態や本人の意向に合わせて、入浴日を調整している。好みのお湯加減に合わせてたり洗髪の希望がない日など個々に沿った支援をしている。	週2回の入浴を基本に、状況に応じて調整しながら支援されています。全介助の利用者にはリクライニングシャワー椅子で対応されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、その時の状況に応じて休息が出来るようまた安心して眠れるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容より薬の目的、効能や副作用を把握し、何度も確認した上で服薬の支援に努めている。また、症状に変化が見られたり気になる点があれば、いつでも医師や薬剤師へ相談するなど、連携を図っている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きの方、広告折りを得意とする方や洗濯たたみ、おかずの盛り付けや山菜等の皮むきなど一人ひとりの力を活かした役割や楽しみごとを通して喜びや生きがいにつながるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	高齢化に伴い外出の機会が減ったが、敷地内でも季節の移り変わりを楽しんでもらえるようイベントを考え楽しんでもらえるよう支援している。今後は、全員でなくても、個々に合わせて買い物や外食に行ける機会をつくっていききたい。	遠出の機会は減ってきていますが、四季の変化が楽しめる広い敷地を利用して、ホームに閉じこもらず気分転換できるよう支援されています。家族の協力を得て一緒に外出されることもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常、必要な物は立替で行っているが、本人が現金を持っていたい場合又は家族の要望があった場合は、自己管理での紛失もご理解いただいた上で本人へ持たせている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人にいつでも自由に電話をかけることができるよう支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく、程よい光が入り込み、ゆっくりとくつろげるよう大きなソファを設置している。窓からは、しだれ桜や竹藪(たけのこ)が見え、ホーム内の装飾により季節を感じていただけるよう工夫している。台所からは、ご飯の炊けるおいしそうな香りが漂い居心地の良い空間づくりに努めている。	天井が高く開放感があり、広い廊下には程良い位置に椅子が置かれ、非常口、デッキのスロープは広く造られて安心感があります。カウンターや食卓に季節の花がさりげなく活けられ、柔らかな雰囲気となるよう配慮されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室であり、気の合った利用者同士が、部屋で会話を楽しんだり、居間や廊下にはソファを置くなど一人ひとりがゆっくりと過ごせるよう工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みの棚や使い慣れた物、植物など本人の好む物を準備していただき、居心地よく過ごせるように工夫している。	利用者が落ち着いて暮らせるよう、家族の協力を得ながら居室造りをされており、室内は清潔に管理されています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下など必要な箇所には手すりを設置し、テラスからも外に出掛けられるようスロープも設置している。トイレや居室には目印や飾りをつけ、個々の力を活かした安全な環境づくりに努めている。		